

暗黒時代のギリシア

土器様式の変遷

- LHIIC 戦士の深鉢（具象画）、鍔壺（幾何学模様）、胴型アンフォラ（幾何学模様）
- S Myc. 胴型アンフォラ（幾何学模様）
- P Geo. アンフォラ（肩部に同心円・同心半円）、胴型アンフォラ（馬の像）
- E Geo. アンフォラ（腹部に装飾紋帯）、胴型アンフォラ（腹部に同心円）
- M Geo. アンフォラ（肩部に装飾紋帯）、アンフォラ（雷紋）
- L Geo. アンフォラ（全体に装飾紋帯・人物像）

年表（アッティカ基準）

- 前 1200 年ころ 後期ヘラディックⅢC期
宮殿時代の終焉
居住地の再編
- 前 1125/00 年ころ サブ=ミケーネ期
青銅器時代の終わり
初期鉄器時代への移行期
- 前 1050/40 年ころ プロト=ジオメトリック期
初期鉄器時代始まる
- 前 900 年ころ 前期ジオメトリック期
- 前 860/50 年ころ 中期ジオメトリック期
- 前 770/60 年ころ 後期ジオメトリック期
ポリスやエトノスの形成
墓所崇拜や神域の出現
- 前 710/00 年ころ 東方化時代の始まり

ギリシア各地の考古学編年

- アッティカ編年の問題点
- アッティカ編年がギリシア編年の基準となりうるのか？
- ラコニア
 - サブ・ミケーネの欠如
 - プロト・ジオメトリックの開始期（前 850 年ころ）
 - 前期ジオメトリック・中期ジオメトリックの欠如

暗黒時代についての言説

伝統的言説（1）：

- マルサス・モデル（下降局面）：物質的貧窮化→人口減少→均衡点→部族制
- マルサス・モデル（上昇局面）：農業生産の向上→人口増加→均衡点→ポリス

伝統的言説（2）：

- 民族移動説：人・もの・言葉の三点セット
- ドーリス人の侵入→ミケーネ文明の破壊→種族の移動→方言分布→鉄器・火葬・クレーロス→ポリス

修正モデル：システムの崩壊とコミュニケーションの復活

- カートリッジ：ドーリス人の移住は前 10 世紀←ラコニアのプロト・ジオメトリック
- スノドグラス：農業経済の変化

モリス：暗黒時代＝身分社会／ポリス時代＝階級社会

モーガン：コミュニケーションの発達→過去との断絶：ポリス・エトノス
ポリスとエトノスの共時性

ホール：方言の地域分化

暗黒時代の歴史的特徴

花粉データから見た暗黒時代のギリシア

南アルゴリス、キラダの事例：牧畜の衰退とオリーブ栽培の発展

青銅器時代の終焉

12世紀 (LHIIIC)：連続と衰退、集住と避難、活発な交易、文化の地方分化

11世紀 (LHIIIC から SM へ)：貧窮と孤立・居住地の減少 (13世紀：約 320；
12世紀：約 120；11世紀：約 40) (Snodgrass, 2000, 364)

人口減少：四分の三以上減少 (Snodgrass, 2000, 367)

アブシダル・ハウス

ドーリス人問題

火葬：ドーリス人の住むペロポネソスではなく、ドーリス人に侵入されたという伝承のないアッティカから小アジアに分布。東方のほうが早い。

石郭墓及び土坑墓：中期ヘラディック文化の復活

テッサリア・ボイオティア・アッティカ・アルゴリス・エーリス・エペイロス
←民族移動が伝えられている地 (例外 アッティカ)

鉄器：アッティカ、アルゴリス、テッサリア、ナクソス、小アジア西部、クレタ
アルゴリスから東に分布

暗黒時代の社会

暗黒時代は身分格差のない部族社会だったか。

青銅器時代の文化的特徴が消滅していき、鉄器時代の特徴が明確になって行く。

変化は連続的・漸進的であって、断続的ではない。

地域間の相違の拡大：

アテナイ：単葬の伸展葬の土葬 (Sub Myc.)

アルゴス：単葬の伸展葬の火葬 (Sub Myc.)

クレタ：集合葬の土葬 (Sub Myc.)

ビッグマン支配

青銅器時代の中心地が暗黒時代の中心地であり続ける。

中心核地＝小さな集落群

中心核地への人口集中 (LHIIIC 期以来の人口集中)

中心核地を構成する小集落の相対的自立：独自の墓地の存在

身分差別の非常に強い社会：アガトイとカコイ

小集落におけるデュナトイの存在＝戦士の墓

集落における個々の住居の不安定生＝井戸の使用

二次的集落の不安定生：ビッグマン支配の不安定性

土器および金属器 (ローレンス曲線)

暗黒時代の大部分 (プロトジオメトリック～中期ジオメトリック)

均質な集団

暗黒時代の初期と末期

不均質な集団